

評価シート集計表

A=4,B=3,C=2,D=1

基本方針 1		総合評価
市民、事業者との連携を強化し、協働による取組みを進めます		B (3.07)
委員	評価	評価理由
委員A	B	若干、目標が達成できなかった項目があるものの、全体的にみると目標は達成している。ただ、達成度が非常に高かった項目があったわけでもないため、B評価とした。
委員B	B	市民や団体、事業者と連携をしながら取組を進めていること、今後も進めていこうということについては評価できる。しかし、計画見直しの時期でもあることから、形だけの連携になっていないかを検証することも必要だと思う。
委員C	C	容器包装プラスチックの発生抑制に向けた、販売店回収の推進が見られないため。市による容器包装プラスチックの回収が始まるが、このままだと発生抑制は進まず、市による回収が増え、収集保管コストを要するようになる。
委員D	A	啓発、広報（広報誌、SNS）について、積極的に実施されていることは評価できる。
委員E	B	一定の量と質をもった指標をたて、活動ができていると評価する。 一方で後期アクションプランにおいては、前期に設定した指標がどれくらい実際の減量や市民・事業者の意識改革に寄与したかを調査し、施策の取捨選択や新たな指標の設定を検討すべきだと感じる。
委員F	A	目標に対して大きく達成しているため。
委員G	B	まちだごみ情報誌「ごみナクナレ」の町田市民を対象とした配布方法に検討が必要と思われます。SNSの発信方法の検討してもいいのではないかな。
委員H	C	市民や事業者とともに循環型社会をつくるという基本姿勢が打ち出されており、押し付けではなく“パートナーとして巻き込む”意識を感じました。 また、実施回数・頻度が多く、取組の“量”においては着実に前進しており、実行力の高さは素晴らしいと思いました。 一方で、「手法の妥当性」「施策の効果性」において、より踏み込んだ形で改善の可能性があると思いましたので、この評価とさせていただきます。
委員I	B	市民・事業者と連携し取り組んでいることは評価できる。しかし、生ごみ資源化団体への支援の取組みをさらに進めてほしい。
委員J	B	各項目の取組みについて、目標値に対して実績数値と内容共に概ね達成されていると評価します。
委員K	B	市民との連携による取組が推進され、市民や事業者の主体的取組が支援されていますので評価できます。
委員L	A	第二回委員会での説明内容と2024年度の7進捗確認票から判断。努力されていると評価できる。
委員M	B	一般廃棄物の減量や資源化に向けた協働等の地道な取り組みは理解できる。これらの取り組みが市民等、特に高齢者に十分に浸透しているとは言えず、さらなる取り組みの強化が必要である。

評価シート集計表

A=4,B=3,C=2,D=1

基本方針2		総合評価
家庭系ごみの減量を進めます		C (2.46)
委員	評価	評価理由
委員A	C	目標が達成できなかった項目が多いため、C評価とした。
委員B	B	引き続き、市民に対してわかりやすいごみ減量についての啓発を続けていただきたい。
委員C	C	リサイクルの推進の前に、発生抑制が第1義であることが盛り込まれていない。例えば、ネット通販の拡大によって、ダンボールなどの紙ごみが増えている。リサイクルすれば良いということではなく、紙ごみそのものを減らしていくための施策が見られない。
委員D	B	家庭系ごみの減量について、周知・啓発は丁寧に実施されていることは評価できる。
委員E	B	事実として家庭系ごみの減量は進んでおり、取り組みを根本的に見直す必要性は見受けられない。一方で、家庭系ごみの減量は、市民の生活スタイルの変化に伴うものである可能性も高く、実績値が各種取り組みの成果によるものなのか、意識調査等による振り返りが必要であると感じる。
委員F	B	リデュース・リユースの推進に取り組んでいただきたい
委員G	B	2-2-2について、2026年4月から容器包装プラスチックの分別回収が始まる案内方法を追加してほしい。
委員H	C	民間事業者や市民団体と協働し、単独では難しい取組を実現されていることは素晴らしいと思いました。 また、マイボトル専用給水器の使用量および温室効果ガス削減量をホームページで公開されているように、成果の見える化を行われている事は素晴らしいと思います。 一方で、手法に関しては改善も余地もあると思いましたので、この評価とさせていただきます。
委員I	C	全体として2019年に設定した2025年の目標値との乖離が大きいため目標の見直し、再設定が必要。
委員J	B	食品包装、生活雑貨等生活周辺にはプラスチックが深く浸透している現代社会では、プラスチックごみの大幅な削減は困難かと思います。今は資源化の推進を早める事が重要かと考えます。評価に関しては実績値にて判断しました。
委員K	C	プラスチックごみの発生抑制・資源化、リデュース・リユース・リサイクルの取り組みを強化していただきたいです。
委員L	C	第二回委員会での説明内容と2024年度の6項目進捗確認票から判断。プラスチックごみの問題が重い課題として残されている。とりわけ2-2-1のマイボトルが利用できる店舗数の設定に疑問を感じる。
委員M	C	容器包装プラスチック分別協力率が前年度以前と比較しても進展していない。取り組み内容を検証し、来年度の全市実施に向けて、分別協力率向上の成果を出して欲しい。

評価シート集計表

A=4,B=3,C=2,D=1

基本方針3		総合評価
事業系ごみの減量を進めます		B (3.07)
委員	評価	評価理由
委員A	B	目標が達成できなかった項目があるものの、全体的にみると目標は達成しているためB評価とした。
委員B	A	おおかた目標値に達している。
委員C	B	リサイクルの推進の前に、発生抑制が第1義であることが盛り込まれていない。
委員D	B	各取り組みの周知・啓発など積極的に実施していることは評価できる。
委員E	C	事業系ごみは減量が進んでおらず、取り組み内容の検証が必要であると感じる。家庭系ごみの減量に対して人口が横這いであることから一人当たりのごみ量が減少していると言えるように、事業系ごみの量に関しても、市内の事業所数や就労者数の推移と対比するとともに、内容物の調査等も行いながら、今起きている現象を正しく把握する必要があると感じる。
委員F	A	公共施設のごみの減量が大きく進んだため
委員G	B	事業系ごみ処理手数料の見直し検討について、値上げについては慎重に検討していただきたい。
委員H	C	公共施設自らが排出削減に取り組むことで、“まず行政自らがやる”という模範性を示している点はとても重要で見習いたいと思いました。 また、実際に巡回や聞き取り調査を通じて、現場とコミュニケーションを取られている点や現行制度の課題や店舗側の協力が得にくい要因など「なぜ」という部分にも目を向けられているのは素晴らしいと思います。 より良い取組みになるような改善の余地はまだあると思い、この評価とさせていただきます。
委員I	B	公共施設からの事業系ごみの削減については、十分成果が出ており、この取り組みをさらに進めてほしい。一方、事業系生ごみについては、目標を大幅に下回っており、目標設定の見直しが必要です。
委員J	B	一部目標値に達していない施策もありますが、おおむね取り組みについては評価します。フードバンク、食べきり協力店については各々の事業者が置かれている実情や経営者の考え方に左右される事もあり、更に昨今の物価高や人件費の上昇等により経営環境が厳しい中、目標値に届かないまでも健闘していると評価します。
委員K	A	重点事業の適正排出に向けた取組が推進されていますので評価できます。
委員L	B	第二回委員会での説明内容と2024年度の6項目進捗確認票から判断。3-2-2の項目に疑問を感じB評価に。
委員M	B	事業系ごみの減量や資源化への各種の取り組みは、理解できる。さらなる減量が推進するよう努力して欲しい。

評価シート集計表

A=4,B=3,C=2,D=1

基本方針4		総合評価
環境に配慮した資源化施設を整備し、適正かつ安全な処理に努めます		C (2.46)
委員	評価	評価理由
委員A	C	バイオガス化設備の停止があるので仕方がない側面はあるが、目標が達成できなかった項目が多いため、C評価とした。
委員B	B	資源化施設の整備、収集体制の見直しなど検討事項が多い。
委員C	B	リチウムイオン電池の混入防止は、電子機器の製造段階から外しやすい設計にする必要がある。市民や市が出来ることは限りがあるので、国などに製造段階からの環境設計をメーカーに義務付けるなどの要望をすべき。
委員D	B	適正・安全な処理については、事故後の対応も進み評価できる。なお、収集体制の見直しは、早急に進めることが望ましい。
委員E	D	高い目標が指標として設定されており、計画期間中に実現ができる可能性がどのくらいあるか再検討が必要であると感じる。
委員F	B	目標未達部分の推進をお願いしたい
委員G	B	収集体制の見直しで、週5回収として頂く事を望みます。
委員H	B	廃棄ではなく、焼却・資源化・再生エネルギー化といった様々な手法を組み合わせ、環境負荷の低減と資源の有効活用を両立させようとする方向性を持っている点が素晴らしいと思います。 また、2026年度に予定されている容器包装プラスチックの全市収集に向けた準備や、市民周知・啓発の体制づくりなど、制度転換に向けた取組みが着実に進んでいる点も素晴らしいと思いました。
委員I	C	バイオガス化施設の火災による停止の影響が大きく、早期の復旧を願う。
委員J	C	資源ごみ処理施設の事業用地取得、また製品プラスチックの中間処理業者の早期契約など、先ずは施設整備を遂行する為の前提を整えて頂きたい。以上の懸案を考慮して評価致しました。
委員K	C	資源化物の選別精度を高め、資源化施設の整備、効率的な収集体制を強化していただきたいです。
委員L	B	第二回委員会での説明内容と2024年度の5項目進捗確認票から判断。4-2-1の項目にもう少し踏み込んだ努力が必要と考えB評価に。
委員M	C	収集体制の見直しは、市民にとって日常の廃棄物収集の大事な課題である。現時点においては、先の解決策が不透明で不安である。

評価シート集計表

A=4,B=3,C=2,D=1

基本方針5		総合評価
社会的課題への対応を強化します		B (3.15)
委員	評価	評価理由
委員A	B	目標が達成できなかった項目があるものの、全体的にみると目標は達成しているためB評価とした。
委員B	B	町田市単独では解決できない問題が多くあるため引き続き関係機関との連携を続けていただきたい。
委員C	B	高齢者のゴミ出し対応において、民生委員などアウトリーチ可能な主体との協力が求められる。
委員D	B	災害廃棄物関連の施策については、訓練等も連携先と行うなど、適切に進められていることは評価できる。その他施策も適切に実施されているといえる。なお、高齢者対応については、対応が難しいと思うが、検討を進めてほしい。
委員E	A	有事の際の受け入れ検討など、一定の成果が見られる。引き続き方針通りの取り組みを期待する。
委員F	A	目標に対して達成できているため
委員G	B	災害時等の教育訓練の実施回数について、2024年は年2回でその後は年1回となっていますが、年2回以上実施した方が良いと思います。
委員H	B	災害対応や高齢者配慮といった重要な社会的課題に対し、方向性を明確に示しつつ、着実に取り組まれていると思いました。特に、教育・訓練の継続実施や地域美化活動の推進、不法投棄対策等は、関係機関や市民との連携を意識した現実的な取組で素晴らしいと思います。
委員I	B	美化活動は、十分行われており評価できる。一方、高齢者等に対応した収集体制の充実を願う。
委員J	B	多岐にわたった取り組みですが、おおむね評価致します。5-2-1の高齢者等の収集体制も今後更に対象者の増加が見込まれる中、人員不足、費用の増加との兼ね合いをどうするか、引き続き検討する必要があると考えます。
委員K	B	まちの美化が推進されていることは評価できますが、高齢者等に対応した収集体制と資源化物持ち去り防止対策を強化していただきたいです。
委員L	B	第二回委員会での説明内容と2024年度の8項目進捗確認票から判断。5-2-1の項目に努力が必要と考えB評価に。
委員M	B	社会的課題への対応について、地道な取り組んでいることは評価できる。特に災害時等への取り組みが市民等に十分に浸透しているとは言えず、さらなる取り組みの強化が必要である。